

米国 種無しサクランボの開発で企業が連携

[FreshPlaza](#) 2025年9月19日

サンワールドインターナショナル社とペアワイズ社は本日、種なしサクランボの開発を皮切りに特産果実分野での協力を行う合弁事業の設立を発表した。サンワールド社は、高品質な種なしサクランボの初の市場展開を目指しており、これらの育種素材に関する商業的独占権を取得する。

この提携は、サンワールド社の果実育種及びライセンス供与に関する専門知識と、ペアワイズ社の(遺伝子編集育種の)プラットフォームであるFulcrum®を活用するものである。契約の一環として、サンワールド社は開発資金への戦略的投資を行う。

収量の最大化と気候変動への対応に加え、サンワールド社の指針の一つは、消費者が実感できる優れた食体験を、利便性の最適化も含め、あらゆる方法で提供することである。サンワールド社は、長年にわたって青果物の利便性に関する特性への投資を行ってきたことで知られており、種なし小玉スイカの導入に始まり、種なしブドウの改良を推進し、最近では種なしレモンや、キューティーズ®、ハロー®、ピール®、クレメンゴールド®等のブランド名で小売市場に流通している多くのマンダリン品種の導入に関する権利管理事業を展開している。

サンワールド社のベルナルド・カルボCEOは、「弊社は長年にわたり、優れた新しい特性、風味、食感、そして利便性を備えた、真に差別化された品種を生産者に提供することに注力してきた。高品質な種なしサクランボの開発は、弊社とペアワイズ社にとっては革新の進展における自然な展開であり、同社は既にこの困難な道のりをともに進む優れたパートナーとなっている」と述べた。

世界初の種なしブラックベリーを開発したペアワイズ社は、需要の高い作物特性の開発を加速させる比類の無いプラットフォームを提供する。従来の育種方法は長期にわたる工程を要するが、この手法により、生産者には持続可能性の向上、病害抵抗性の改善、収量の増加をもたらすとともに、消費者に好まれる果実がより迅速に提供される道を切り開く。

ペアワイズ社のCEOであるトム・アダムズ博士は、「農業の中でもこの分野には、意味深い革新をもたらす大きなチャンスがある。サンワールド社は果実の育種において最も成功している商業的品種候補群の1つを築いてきた。その専門知識と弊社のFulcrumプラットフォームの精度と効率性を組み合わせることで、従来は不可能とされていた手法を用いて、これまで対応できなかった消費者と生産者のニーズに応えることが可能となる」と語った。

研究開発はペアワイズ社が主導し、サンワールド社は遺伝資源、育種インフラ及び商業市場へのアクセスを担当する。合弁事業は既に開発作業を進めており、今後さらなる戦略的提携を探る可能性もある。この連携協力は、消費者向けの特性の重視に加え、先進的な植物育種を活用して持続可能な農業を支援し、廃棄物を削減し、消費者と生産者の双方にとって価値の高い成果を創出するという業界全体の取り組みにも合致している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)